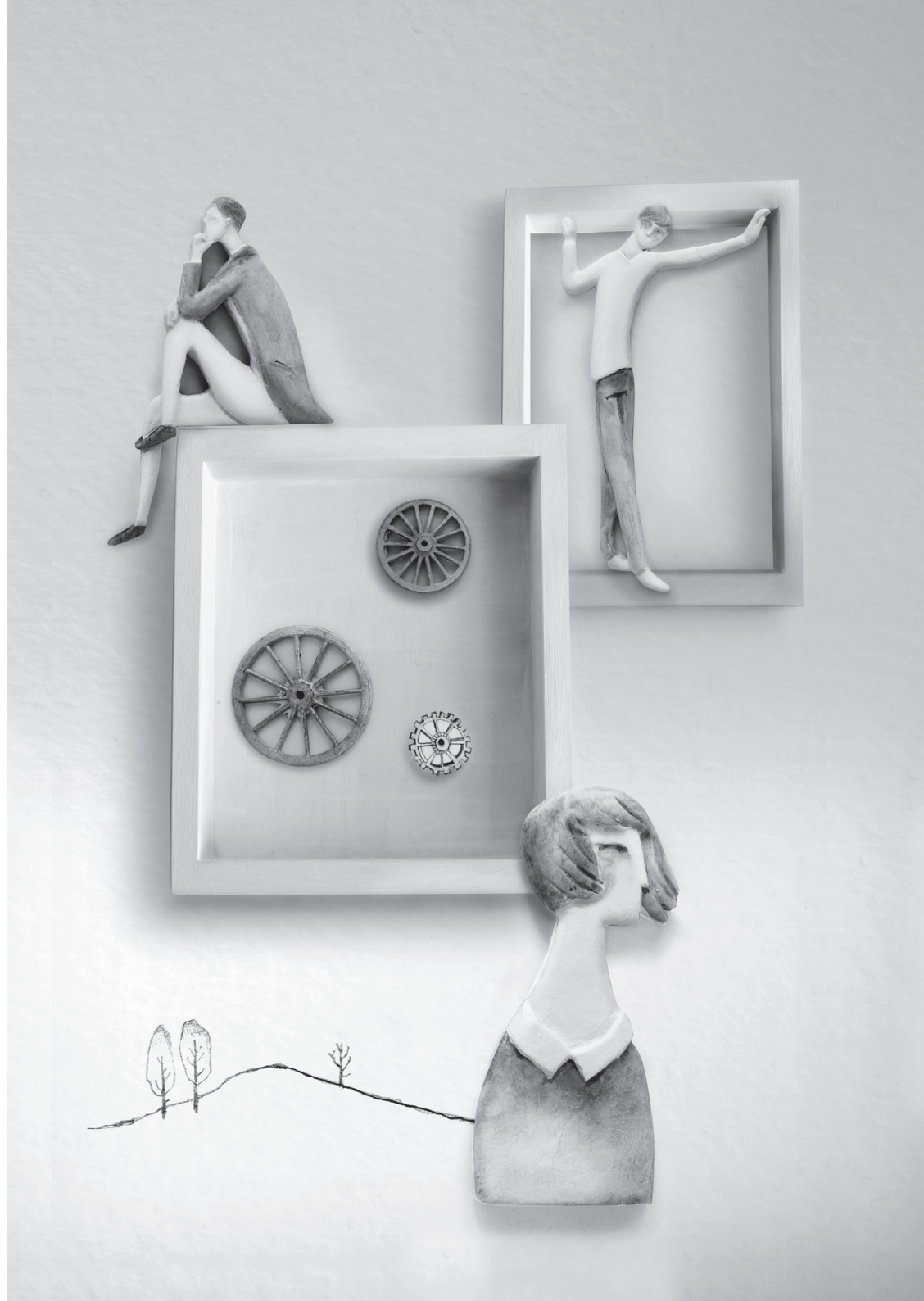


ジョージア

太田衣緒



登場人物

焼芋売りの兄

焼芋売りの弟

風鈴売りの女

夏の夕暮れの空き地。片隅に、小山の様な丘がある。

焼芋売りの兄弟が居る。

片腕を包帯で吊った兄、リアカーを引くのは弟の仕事のようだ。

と、携帯電話の受信音。

焼芋売りの弟、メールを確認する。

兄
ほら。

焼芋売りの兄、缶コーヒーを二つ取り出し、一つを弟にやる。

二人、蓋を開けて缶コーヒーを飲む。

遠くで打ち上げ花火の音がする。

兄 今日には花火大会だったか？

弟 ああ。

兄 曇っててちっとも見えないな。

弟 ああ。

兄 ……これ、微糖だな。

弟 え？

兄 間違えたよ。お前、それ加糖だろう？

弟 ああ、そうだな。

兄 苦いな。

弟 苦かないだろう？
兄 苦いよ。
弟 微糖だって砂糖が入ってるんだ。
兄 微かにな。足りねえよ、全然。

再び、メールの受信音。

兄 花火、一緒に行きたかったんじゃないの？
弟 え？
兄 お前の彼女。
弟 は？
兄 彼女だろう、さつきから？
弟 関係ねえだろう。
兄 関係はねえけどさ、隠さなくたっていいじゃない。
弟 別に隠してねえよ。
兄 隠してるじゃねえか。
弟 気持ち悪いんだよ。
兄 気持ち悪い？
弟 そうなの。
兄 どうなのだよ？
弟 ……………
兄 格好つけるなよ。
弟 つけてねえよ。
兄 ふうん……でも、女って好きじゃない。花火とか。
弟 そうなの？

兄 そうだよ。知らないのか、お前？……でもやっぱり苦いな、これ。
弟 代えてやろうか？
兄 もう飲んじまったよ。
弟 そう。
兄 まだあるのか？
弟 飲んじまったよ。
兄 何だよ。

メールの受信音。

兄 想われてるな。
弟 え？
兄 何でもない……お前、本当は加糖がいいのに、格好つけて微糖飲んでるんだろう？
弟 は？
兄 分かったよ。今までずっと騙されてたよ。だってお前、物凄い勢いで、旨そうに飲んだぜ、加糖を。
弟 お互い様だろう？ 喉が渴いてたんだよ。
兄 へええ。
弟 下らないんだよ。
兄 何が？
弟 全部。
兄 怒るなよ。
弟 怒ってねえよ。
兄 怒ってるじゃねえか。
弟 と、焼芋売りの弟、リアカーの中から芋を一つ掴んで、それを思い切り遠くへ放る。